



# 文明と天災 I

## ～ 「助かるために」 当事者意識の醸成：

### 防災教育すごろく制作・普及活動の一事例～

発表者

暁星国際中学校・高等学校

シエリン・ミシェル・エリカ(高3)、高山愛女(高3)、  
小澤優(高2)、永森理仁(中1)

上智大学

わけみみのり(大1)

聖心女子大学大学院

進藤悠佳理(M1)

2022年6月27日(月) 分科会：人間社会と地球環境

# 目次

## 0. はじめに

## 1. 「文明と天災」研究

「文明と天災」プロジェクト  
現代の文明社会の中での災害伝承  
災害伝承の断絶による懸念事項  
災害伝承に対して「当事者である」という意識

## 2. 「防災教育すごろく (3Dすごろく)」の作成

防災教育すごろく(3Dすごろく)  
リアクション  
すごろくを遊ぶ様子&頂いたコメント  
改善点

## 3. 災害伝承の分類

効果を発揮できる場合とそうでない場合の2パターン  
災害伝承が効果を発揮しない原因の分類

## 4. まとめ



# 0. はじめに

▶文明と天災研究

▶実践例：防災教育すごろく（3Dすごろく）

▶防災教育すごろく（3Dすごろく）から見えた「災害伝承の種類」

# 石川県能登地方を震源とする マグニチュード5.4の地震

2022年6月19日(日)15時08分頃

- ▶かつて地震空白域：不慣れな地元の方々は恐怖
- ▶他人事ではない「当事者意識」



# 「文明と天災」プロジェクト

**天災**とは：

地震や台風、洪水などの自然現象

**災害**とは：

土地、動植物、各種施設や生産物が機能的障害を受けること自体が災害ではなく、機能障害が人間の生活に障害を与えること

(出典：佐藤武夫ほか『災害論』p.217)



# 1.文明と天災の紹介

「文明と天災」プロジェクト

現代の文明社会の中での災害伝承

災害伝承の断絶による懸念事項

災害伝承に対して「当事者である」という意識

# 「文明と天災」プロジェクト

- 2011年 東日本大震災を契機に「文明と天災」研究スタート
- 東日本を襲った地震・東北沿岸地域への津波により  
文明の産物・その上に成り立つ日常は  
自然の力によってたやすく壊されてしまう
- 東日本大震災のような震災は今後も再び訪れる  
今後の生き方を模索していかなければならない



# 「文明と天災」プロジェクト

- 東日本大震災により、文明社会の脆弱性に直面
- 天災の発生自体を完全に止めることは不可能
- 文明の中に生きる私たちが、  
天災とともに生きていくにはどうすべきか
  - ▶ 「災害伝承」に着目

＝共同体の中で育まれてきた経験知





# 現代の文明社会のなかでの災害伝承

## 経験知の軽視

災害伝承：共同体の中で育まれてきた経験値

土地の風土と対話しながら作り上げられてきた

現代社会の中では軽視され、消失や風化の一途を辿る

文明が進むとともに過去の知恵を軽視する傾向を指摘（寺田寅彦）

▶断絶しつつある



## 災害伝承の断絶による（懸念事項）

災害発生が言い伝えにより予測

▶実際に被災を免れた実例の存在

（出典：笹本正治:災害文化と伝承—長崎県小谷村の土石流災害と伝承—,  
京都大学防災研究所年報,41号,pp.631998）



# 災害伝承に対して「当事者である」という意識

- ▶ 誰しも常に災害にあう可能性がある
- ▶ 防災・減災の経験知である災害伝承



災害伝承に対してひとりひとりが**当事者意識**を持つこと

災害伝承に触れ、学び、災害伝承を**当事者意識**を持って捉えていくことは、人々が災害に対して「**当事者意識を醸成**」していくことに繋がっていく



# 災害伝承に対して「当事者である」という意識

東日本大震災の記憶がないような若年層なども含め、  
一人ひとりに当事者意識を持ってもらえる

## 防災・減災教育

- ▶ 継続的な東日本大震災復興支援ボランティア・被災地訪問
- ▶ 被災された方との交流
- ▶ 災害の記憶の風化への危機感



『楽しみながら災害伝承を学ぶ』



## 2. 「防災教育すごろく (3Dすごろく)」の作成

防災教育すごろく (3Dすごろく)

リアクション

すごろくを遊ぶ様子&頂いたコメント

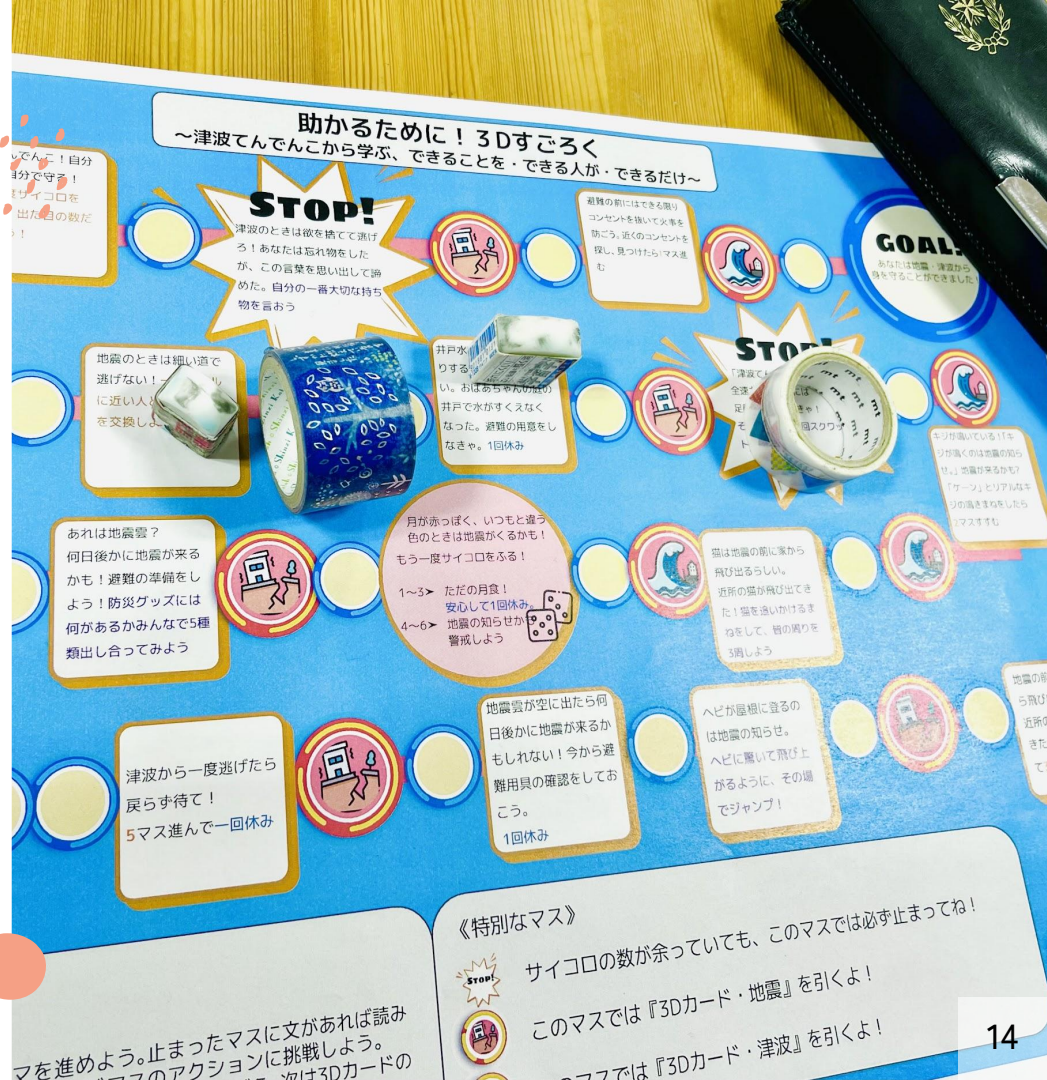
改善点

# 防災教育すごろく (3Dすごろく)

助かるために！3Dすごろく  
できることを・できる人が・できるだけ

- ▶ゲームを通して災害伝承を学ぶ
- ▶幅広い対象への防災教育

楽しく身近なものとして  
災害伝承を学ぶ





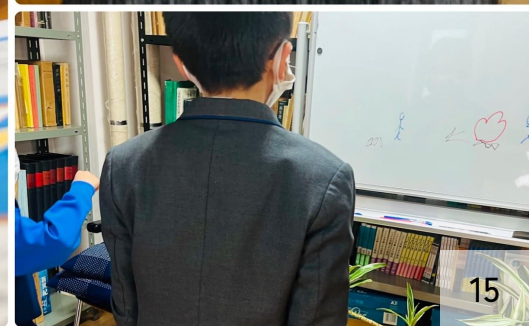
2-2

# リアクション

「とても楽しかった」

「また遊びたい」

▶災害伝承に親しみ、  
楽しめるすごろく



# リアクション

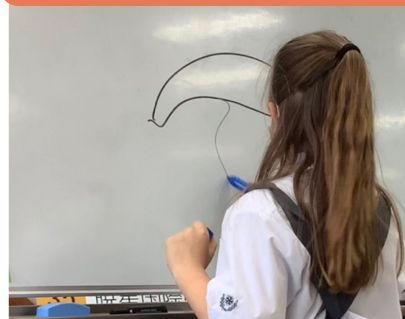
多言語対応

防災教育すごろく（3Dすごろく）  
world版

- ▶フランス語版を作成
- ▶実践例

（対象）フランス語教諭・児童

すごろくを通して当事者意識を持ってもらう  
ことが出来た





2-2-2

## すごろくを遊ぶ様子&いただいたコメント



# 改善点

(整理中のコメントなど)

- さらに前提となる知識やアドバイスを豊富に入れる
- 知り合いだけでなく、より多くの人に伝えていくための工夫

- **伝承の分類が必要**

災害伝承が育まれてきた背景、意味合い、現在との相違点とこれからも通じる点...の分析



# 3.災害伝承の分類

効果を発揮できる場合とそうでない場合の2パターン

災害伝承が効果を発揮しない原因の分類





## 効果を発揮できる場合とできない場合の2パターン

災害伝承が効果を発揮する場合としない場合(小野寺先生)がある  
災害伝承が効果を発揮しない場合の原因の分類をすべきである

### ▶効果を発揮した例

稲むらの火(濱口梧陵)

地震・津波の予兆：水位の急速な変動、発光、砲声音

### ▶効果を発揮しなかった例

東日本大震災

地震・津波の予兆：津波てんでんこ

# 災害伝承が効果を発揮しない原因の分類

科学的根拠が  
確認できない

期限が不確か  
内容の変化

現代の状況に当てはめて  
再構成が必要

状況が当てはまらなく  
なってしまった

地形・気候などの変化  
人間の生活様式の変化

心情的要因

実行し難い  
「忘れたい」という心理

⇒すごろくに反映させていく



## まとめ

「天災と共生していく」  
災害伝承をこれからも生きるための知恵として活かすには

- ▶ 災害伝承を楽しく学べる「すごろく」の発案・作成
- ▶ 災害伝承の分類・検証が必要
- ▶ 一人ひとりの当事者意識の醸成につなげたい



# 参考文献

- 1) 笠原正大: 日本の防災教育における環境学習の重要性, Tsunami, and Net Working, 2020
- 2) 采翠みのり: 防災における災害体験の「経験化」の重要性について, Tsunami, and Net Working, 2021
- 3) 小野寺清: 津波避難行動を阻害する諸要因, Tsunami, and Net Working, 2022
- 4) 佐藤武夫 他: 災害論, 勁草書房, 1964
- 5) 寺田寅彦: 天災と日本人所収「津波と人間」 角川ソフィア文庫, 1933
- 6) 笹本正治: 災害文化と伝承, 京都大学防災研究所年報, 1998
- 7) 金井昌信 他: 津波常襲地域における災害文化の世代間伝承の実態とその再生への提案, 土木計画学研究・論文集, 2007

他

ご静聴  
ありがとうございました！

